

朝日町立病院における回復期への転換と大規模改修工事について

1 朝日町立病院の概要

(1) 設置主体 : 朝日町

(2) 病床数 : 50床 (一般病床40床、地域包括ケア病床10床)

(3) 職員数 (H31.1.31現在、正職員数)

職種	人数	備考
医師	3	
看護職	30	看護師28、准看護師2
医療技術員	11	薬剤師1、臨床検査技師2、診療放射線技師2、作業療法士2、理学療法士3、管理栄養士1
事務	4	
計	48	

2 平成31年度の病床再編計画

(1) 病床再編と病床規模の適正化

平成29年3月に策定しました新朝日町立病院改革プランに基づき、平成30年度に実施しております。具体的には平成30年5月に一般病床を60床から50床に削減し、平成30年12月に地域包括ケア病床10床を稼働しました。平成31年度の大規模改修を経て急性期から回復期への転換を図ります。

	平成29年度	平成30年12月	2020年2月(予定)
急性期病床	一般病床 60床	一般病床 40床 地域包括ケア病床 10床	
回復期病床			一般病床 40床 地域包括ケア病床 10床
計	60床	50床	50床

(2) 回復機能の充実

回復期医療の充実を図り在宅復帰に向けた体制を強化し、三次医療機関や近隣の基幹病院、当院の一般病床等からの受け入れを行います。具体的には以下の施策を実施します。

①施設面

病棟を中心に回復期に適した施設へと改修を行います。

②人的配置

回復期の充実のため必要な人員について計画的採用を実施します。

- ・平成29年4月 理学療法士 1名増員
- ・平成30年8月 リハビリテーション助手 1名増員
- ・2020年4月 作業療法士(又は理学療法士) 1名増員予定

③その他

訪問診療や訪問看護、訪問リハビリテーション等の事業を継続し、レスパイト入院の実施など地域包括ケアシステムを支える役割を担っていきます。

3 整備計画の内容

(1) 病棟改修

①病室、廊下、面会室改修

改修予定箇所は昭和 59 年及び 60 年竣工であり、構造的変更を伴う改修は実質不可能です。そのため地域包括ケア病床に必要な面積要件については 4 床室を 2 床室、2 床室を個室にすることにより対応します。

空調については現在の集中管理方式から、個別に室温管理の行いやすい個別エアコンに切替えます。その際には電気設備工事もあわせて必要となります。その他、カーテンレールの変更や内装、車椅子対応の洗面化粧台の設置、LED照明への切替え、網戸の設置等により療養環境の充実を図ります。

②浴室改修

在宅復帰に向けた訓練の一環となるよう、一般家庭を想定したバリアフリー浴室に改修します。

③トイレ改修

和式から洋式への切替えや、汚物処理室の集約により生じたスペースを多目的トイレとして改修し、車椅子でも利用しやすい環境を整えます。

(2) リハビリテーション室改修

増加傾向にあるリハビリ患者に対応し、さらにその機能を強化するため改修を行います。

具体的には、施設全体の見直しにより不要になる休養室をリハビリテーション室の一画として改修・拡充します。また、入院患者のリハビリテーション室利便性向上のため、病棟近くに出入口を増設します。

〈参考〉過去 10 年間の通所リハビリテーション件数 (単位：件)

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
1,469	1,716	1,672	2,190	2,515	2,252	2,342	2,103	2,498	2,842

(3) リハビリ用器具の購入

No.	機器名	台数	設置場所	説明
1	牽引装置	1 台	リハ室	頸部及び腰部のリラクゼーション、治療装置
2	低周波治療器	1 台	リハ室	痛み軽減、筋収縮を促す装置
3	歩行訓練用マット	1 台	リハ室	不整地歩行能力向上用マット
4	アップライトバイク	1 台	リハ室	体力向上、下肢持久力向上のための機器
5	リカンベントバイク	1 台	リハ室	体力向上、下肢持久力向上のための機器
6	前後安心車いす	1 台	リハ室	危険防止機能付き車いす
7	ハイローテーブル	2 台	ディールーム	食事訓練用乗降式テーブル

(4) 中央病歴管理室及びサーバ室への改修

施設全体の見直しにより不要となるスペースを中央病歴管理室として改修するとともに、倉庫の一部をサーバ室に改修します。

(5) スケジュール

年 月	内 容
平成 31 年 4 月	施設整備実施設計入札
2019 年 6 月	実施設計完了
2019 年 7 月	施設整備工事、設備整備入札 → 工事開始
2019 年 10 月	リハビリテーション室改修終了 → 設備整備品納入
2020 年 2 月	施設整備工事完了

(6) 財源内訳 (単位：千円)

①施設整備

総事業費	県補助金	病院事業会計		町一般会計
		病院債	一般財源	
187,330	85,150	51,000	90	51,090

②設備整備

総事業費	県補助金	病院事業会計		町一般会計
		病院債	一般財源	
4,070	1,847	1,700	523	0

※①、②とも山形県病床機能分化連携施設・設備整備費補助金を活用予定

4 事業の効果

当院は、昭和 33 年の開設以来、町内唯一の入院機能を持つ医療機関として、地域医療を担ってきました。昭和 60 年の現病棟建築以来、急性期の一般病床 60 床で運用してきましたが、近年、病床利用率は低下傾向にあります。

さらに、回復期病床へのニーズが高まっており、地域包括ケアシステムの構築に寄与するため、また将来的に推計される機能別病床の必要量に対応するためにも回復期病床への転換を図る必要があります。

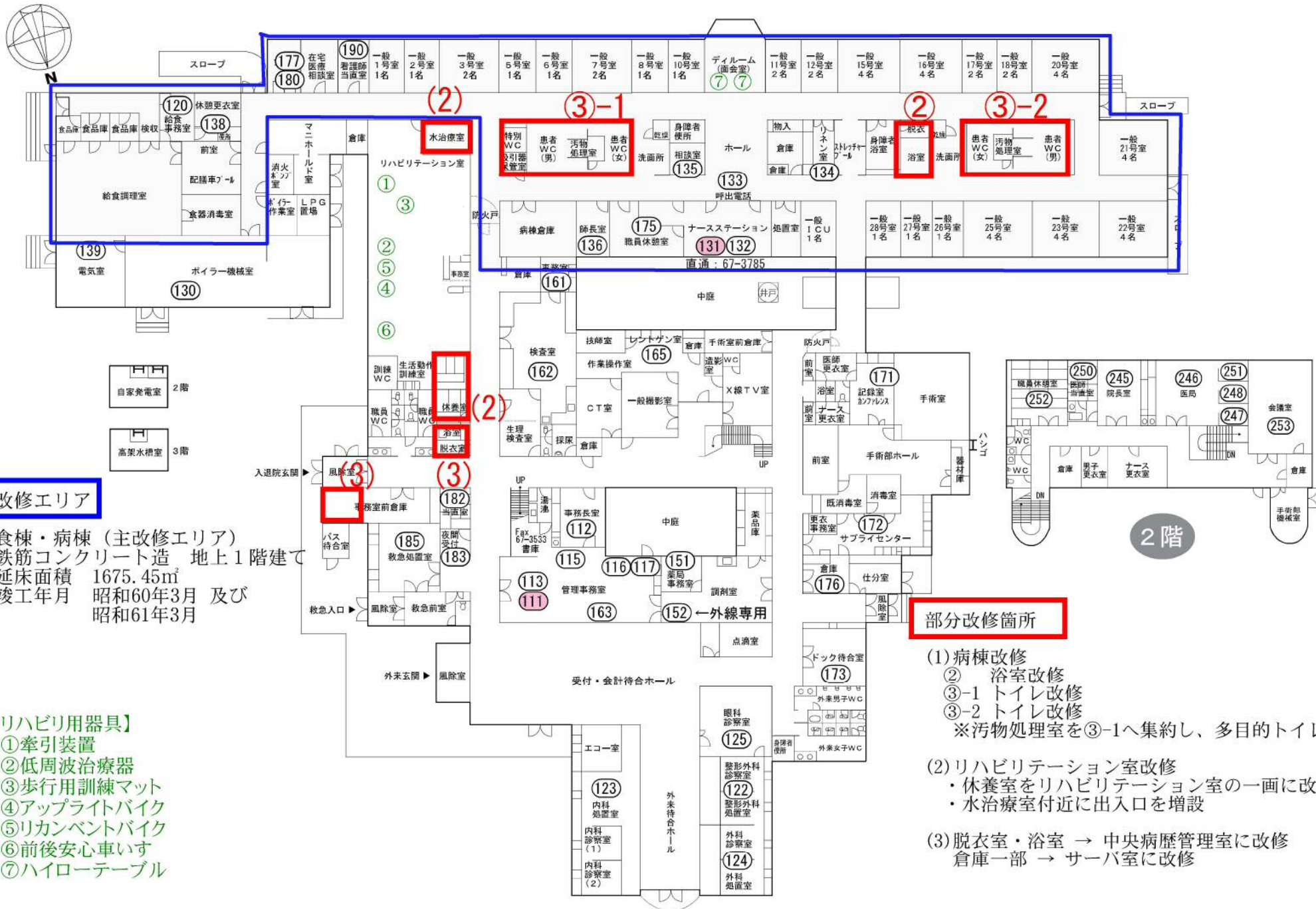
これらの課題を解決するため、平成 29 年 3 月に策定しました新朝日町立病院改革プランに基づき計画的に事業を実施してきましたが、本事業の完了により急性期から回復期への転換が図られることとなり、病床利用率と 1 日当り入院単価の増が見込まれます。

当院では経年経過による施設の老朽化も課題となっておりますが、平成 30 年 12 月に今後 10 年間の改修概要をまとめた朝日町立病院中長期改修計画を策定しました。これは今後 20 年程度 (2038 年頃まで) 現施設を使用することを目的としております。

三次医療機関や近隣の基幹病院からの受入れはもちろん、地域や町と連携のうえ地域包括ケアシステムを推進し、より質が高く、地域に合った持続可能な病院運営を目指します。

〈参考〉過去 3 年間の入院実績

	入院患者数	病床利用率	平均入院単価
平成 27 年度	8,338 人	38.0%	27,163 円
平成 28 年度	7,283 人	33.3%	26,512 円
平成 29 年度	7,527 人	34.4%	26,914 円



主改修エリア

給食棟・病棟（主改修エリア）
 鉄筋コンクリート造 地上1階建て
 延床面積 1675.45㎡
 竣工年月 昭和60年3月 及び
 昭和61年3月

- 【リハビリ用器具】**
- ①牽引装置
 - ②低周波治療器
 - ③歩行用訓練マット
 - ④アップライトバイク
 - ⑤リカンベントバイク
 - ⑥前後安心車いす
 - ⑦ハイローテーブル

部分改修箇所

- (1)病棟改修
 - ② 浴室改修
 - ③-1 トイレ改修
 - ③-2 トイレ改修
 ※汚物処理室を③-1へ集約し、多目的トイレに改修
- (2)リハビリテーション室改修
 - ・休養室をリハビリテーション室の一画に改修
 - ・水治療室付近に出入口を増設
- (3)脱衣室・浴室 → 中央病歴管理室に改修
 倉庫一部 → サーバ室に改修